

平成 23 年 6 月 1 日

汗ばむ季節が近づいてきましたね。水虫に悩む方もいらっしゃるのではないのでしょうか。湿度の多い時期は、真菌（カビの一種）が繁殖しやすく、時として体に害を及ぼすことがあります。

今回は、「白癬」についてお話をします。

免疫力の低下や不衛生な状態が原因で真菌（カビ）に感染し、増殖した状態を真菌感染症です。皮膚や粘膜など外から見えるところに感染すると表在性真菌症、内臓など目に見えないところまで感染が及ぶものを深在性真菌症と言います。水虫で知られる白癬菌による感染症は、表在性真菌症の代表格と言えます。



● 白癬菌とは

白癬菌は真菌（カビ）の一種で、人口の4人に1人が感染していると言われています。ヒト・動物・土の中などに存在し、皮膚に侵入すると、湿気・温度などの条件がそろった場合に病気を起こします。皮膚を構成しているタンパク質を栄養として発育するため、角質だけでなく、爪や毛などの組織でも繁殖します。爪の内部や頭部に感染した場合は真菌の除去が難しく、重症になりやすいので注意が必要です。足に起こるものを水虫、体部に起こるものをたむし、頭部に起こるものはしらくもと言われます。

● 白癬の症状



【足にでる症状】
 ○うろこ状の皮膚、痒みを伴う発赤
 （皮膚の一部だけ、あるいは足の裏全体に広がることも）
 ○液体の詰まった水疱
 ○ひどいときには皮膚がひび割れも

【爪にでる症状】
 ○爪が厚くなる、光沢を失う、形がゆがむ

【頭にでる症状】
 ○ピンク色のうろこ状皮疹【頭】
 ○頭皮の抜け落ち【頭】

【体にでる症状】
 ○縁がピンク色でうろこ状の皮疹

● 治療

頭部と爪内部に感染したものを除き、ほとんどの白癬は軽症です。

足や体部に症状が出た場合、外用薬による治療が主体となります。外用薬を使っても、症状が軽減されるまでには数日かかります。症状が消えた後でも真菌がわずかに残っていますので、真菌を完全に除去するために7~10日間薬を使用し続けることが重要です。中断してしまうと、真菌が再び増殖して再発する恐れもあります。

治療に使う塗り薬は病院で処方されるもの（医療用医薬品）と、薬局で購入できるもの（一般用医薬品）があります。

薬品名（例）
医療用医薬品
ニゾラール®、ラミシール®、ゼフナート®、マイコスポール®、エンペシド®など
一般用医薬品
ブテナロック®、ラミシール®、ダマリン®、スコルパ®、タムチンキ®など



症状が重く治るのが遅い場合、頭皮や爪に症状が出た場合には、内服薬を使用します。内服薬はすべて、医師の処方が必要な薬です。

- 内服薬 イトリゾール®
ラミシール®



● 予防

○体を清潔に！

- ・入浴時には石鹸を使用して丁寧に洗い、十分に乾かしましょう。
- ・皮がはげていたり白くふやけたりしていないか確認しましょう。
- ・靴はなるべく脱いで、通気性のあるストッキングや靴下を選びましょう。

○お掃除も大切！

- ・同居人に白癬の方がいる場合、足を掻いたあと白癬菌の皮膚が床に落ち、接触すると感染することがあります。
→白癬菌にかかわらず、菌全般に共通です。



<参考>

- ・「今日の治療指針」 医学書院
- ・「病気と薬パーフェクトブック 2011」 南山堂
- ・メルクマニュアル家庭版

<http://merck.manual.jp/mmhe2j/index.html>

